

2019年度 経済学部 FD 活動報告

2019年度の経済学部 FD 活動計画に従って下記の活動を行った。

1. 学生対象

(1) 「学生生活とその成果に関するアンケート」

毎年12月に4年次生を対象として行っている学生生活とその成果に関するアンケート（以下、学生生活アンケート）を2019年度も実施した。このアンケートでは、大きく「進路」、「卒業論文」、「学生生活」、「経済学部の教育」の項目について22個の質問項目を設定している。経済演習Ⅳの履修者数269名に対し回答者数は230名で、85.5%の回答率であった。

このアンケートの結果はFD委員によって分析され、その内容が2020年3月26日から31日にかけてメールによる議論という形で実施された第4回経済学部FD研修会において報告された。また、毎年この結果と分析をふまえて次年度の経済学部研修会の議題を設定する。

(2) 「経済演習制度」

2019年度に卒業する学生には4年間にわたるゼミ活動が必修として義務づけられている。1・2年次には、それぞれの年度で異なった教員の指導を受け、議論の仕方や資料検索の方法、論文・レポートの書き方などを学ぶ（ただしクォーター制導入に合わせて、2017年度以後の入学生については、2年次のゼミを取りやめ、その期間に留学や社会活動等を行いやすくした）。全てのゼミで春学期に「書評」または「修了レポート」を、秋学期に「修了論文」を提出することとなっている。

3・4年次には、2年間に渡って同一の教員から専門的な指導を受け、最終的に卒業論文の作成へと結びつける。この2年間の内に、国内外の他大学との研究発表会やインターゼミと呼ばれる活動を行うゼミナールも存在している。4年次の最後には、卒業論文を提出しなければ経済演習Ⅳの単位が与えられない。学生生活アンケートでは86.7%が4年間の経済演習制度に「非常に満足」、あるいは「まあまあ満足」と回答していた。

(3) 「能力別クラス編成」

2009年度から「経済学のための数学」で、2012年度から「ビジネス英語」と「時事英語」で能力別クラス編成を実施している。受講生の状況に応じて到達目標や教授方法に差異を持たせることで、きめ細かな指導が可能となっている。学生生活アンケートでは、80%以上の学生が能力別クラス編成に満足している（「経済学のための数学」に対しては85.0%、「ビジネス英語」、「時事英語」に対しては81.8%）。

(4) 「経済学部オリエンテーション」

2019年度は3月31日、4月1日、および4月3日に新入生のためのオリエンテーションを行った。学部長講話、経済学部のカリキュラム説明、1年次のゼミを決定するた

めのガイダンス、第1・第2クォーターの履修登録指導、経済学部学び方講座などを実施した。新入生が最初に大学と関わる場であり、ここでカリキュラムのねらいやゼミの内容、学生生活上の留意点、進路決定に向けた心構え等について説明を受けたり質問したりすることができる。また14名の先輩学生が補助につき、新入生の良き相談役として活躍してくれた。

(5) 「経済学生論集」

指導教員から推薦された個人やグループによる論文を、『経済学生論集』（南山大学経済学会発行）としてまとめている。2019年9月に刊行された第33集には10編の論文が掲載された。また、論集の最後には、2018年度に提出された全ての卒業論文のタイトルが記載されている。

(6) 「学部長表彰者との懇談会」

成績優秀者に対する学部長表彰式の後に、学部長と学科長が表彰を受けた学生との懇談を行っている。ここで集められた意見は教授会や学部研修会などで報告され、必要があればそれに対する改善提案がなされる。

(7) 「オフィスアワー」

学部の全教員がオフィスアワーを設けている。予約は不要で、指定された時間であれば教員による対応が保証されている。

2. 教員対象

(1) 第1回経済学部FD研修会（7月25日）

2019年度経済学部研修会では、「2020年度以降の経済基礎演習（1年次生受講）の決定と運用方法に係るワーキンググループ中間報告について」というテーマで、学部構成員間で議論を行った。経済学部教授会構成要員24名のうち、16名が参加した。

(2) 経済学部研修会（第2回経済学部FD研修会：9月5日）

2019年度経済学部研修会では、「推薦入学審査関係（基準の見直し等）」、「入学試験区別の募集人員の割振り・科目配置およびアドミッションポリシーについて」、「担当教員の授業コマ数について」、「2020年度以降の経済基礎演習の運用について」、「学修効果測定について」などについて議論した。また、「入試種別による成績追跡調査」などについての報告があった。経済学部教授会構成要員24名のうち、18名が参加した。

(3) 第3回経済学部FD研修会（1月10日）

名古屋大学教育基盤連携本部／高等教育センター／大学院教育発達科学研究科准教授の中島英博先生をお招きして、「学生のライティングを支援する」というタイトルで講演をして頂いた。これは、今年度議論されてきた経済基礎演習の運用において、受講生のライティング能力を高めることを意図している。参加者数は経済学部教員が17名、他学部教員等が2名であった。

(4) 経済学部 FD 委員会 (3月18日)

FD 委員, 教務委員, 入試広報委員, 学生委員, キャリアサポート委員で構成される経済学部 FD 委員会を開催し, 2019 年度の FD 活動を確認した上で, 2020 年度の FD 活動計画について議論した。

(5) 第4回経済学部 FD 研修会 (メールによる報告・議論; 3月26日-31日)

「学生生活アンケート」の分析結果についてメールにより報告・議論が行われた。ただし, 今年度のみ実際の研修会ではなくメールによる報告・議論となったのは, 年度末に愛知県でもコロナウイルスの問題が発生し, 各教員の活動が制限されたためである。今年度も, 2018 年度と同様に経済学部への満足度や進路への自己評価について, 他の質問とのクロス集計をすることで, 満足度や自己評価が高い学生の特徴を分析した。